

ショウガ白星病の防除体系

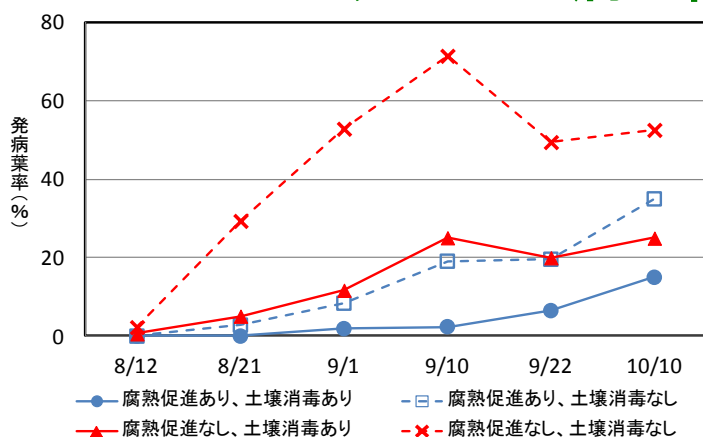


図1 腐熟促進と土壌消毒(ソイリーン)による白星病の防除効果(2014)
各区とも、全株の茎2本ずつ上位展開葉4枚を調査した。



写真 腐熟促進による腐敗(2014)
上: 腐熟促進あり、下: 腐熟促進なし

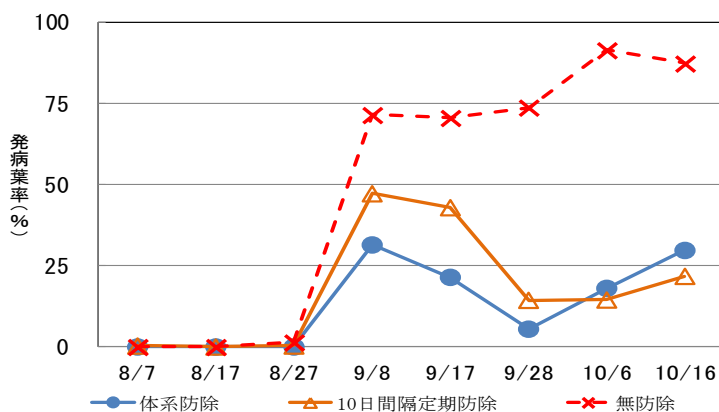


図2 生育期間中の体系防除による白星病の防除効果(2015)
各区とも、全株の茎2本ずつ上位展開葉4枚を調査した。

表 各区の薬剤散布実績(2015)

区	薬剤散布日
体系防除	8/11、8/24、9/5、 9/15、9/27
10日間隔 定期防除	8/11、8/21、9/2、 9/12、9/22、10/2
無散布	なし

ショウガ白星病は、これまでの調査で、土壌中に残った病原菌が伝染源となって発病し、その後は、病斑上の胞子が雨によって周囲に飛散して、発病が拡大することが分かっています。今回、白星病を効果的に防除するための防除法を検討しました。

まず、土壌からの伝染防止として、圃場に残された残さ(茎葉)の腐熟促進の効果を検討するため、収穫後の圃場にフスマをすき込み、さらに約20日間隔で2回耕うんした結果、残さが腐敗し、その後植え付けたショウガでの発病が減少しました。

さらに、腐熟促進と土壌消毒を組み合わせることで、その効果が高まりました(図1)。

次に、生育期間中の殺菌剤の散布時期を検討したところ、発病が増え始める8月以降、降雨の前に予防的に散布する、または降雨後2日間以内をめどに散布する(体系防除)と、高い防除効果が得られました(図2、表)。

これら2つの技術を組み合わせることで、さらに効果的な白星病の防除が可能になると考えられます。

(病理担当 森田泰彰 088-863-4915)

高知県農業技術センターニュース 第84号 平成28年7月1日

編集発行 高知県農業技術センター 所長 石本 周平

農業技術センター

〒783-0023

高知県南国市廿枝 1100

TEL (088) 863-4912

FAX (088) 863-4913

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2012>

果樹試験場

〒780-8064

高知市朝倉丁 268

TEL (088) 844-1120

FAX (088) 840-3816

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2013>

茶業試験場

〒781-1801

吾川郡仁淀川町森2792

TEL (0889) 32-1024

FAX (0889) 32-1152

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2014>